



日本クリスチャン・アシラム連盟

日本アシラム

アシラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒 181-0011 東京都三鷹市井口3-15-6 池の上キリスト教会内 日本クリスチャン・アシラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

日常生活の全てにおいて



日本クリスチャン・アシラム連盟 理事

日基 東大阪教会

牧師 脇田眞一

アシラム集会では、通常、参加者は予め決められた聖書一〜二章を精読し、自分に強く迫る一〜二個の聖言を発表すると共にその聖言に関連する体験事項と自分の信仰的受け止めについて発表し合う。同じ聖書の箇所を読んでも、人によって感動する聖言が異なり、その受け留め方も違うことを学び、ああそういうように信仰的に受け止めることもできるので教えられ、互に信仰が深められる。この場合、聖書の聖言が先にあって、それに関連する体験事項や信仰的受け止めは聖言の後について来る、即ち、体験事項や信仰的受け止めは聖言の後付けである。

さて、日常の生活においては、思いがけない事件が起こり、これにどう対処すれば良いのか、苦悩する。事件が先に起こり、これにどう対処するのがキリスト者としてふさわしいのかと神に切に祈り、聖言を戴く。その聖言に従うのは、たとい、自分に取って不利益であっても、神から戴いた聖言であるから、それに聞き従うと決断する。その一例について述べる。

私の若い時、親戚の人から私に「大阪の枚方市に八軒長屋の文化住宅を購入したので、あなたが管理人としてそこに住み込み、毎月の家賃を集めて送ってくれたら、あなたの家賃はただにしてあげる。そこに移住してくれないか」との依頼があった。その当時、私は給与の半分位の家賃を支払っていた。双方に取り、非常に都合の良い提案であった。その当時、私は毎週金曜日、会社の出勤前に六時三〇分から始まる朝禱会に出席していた。転居すると、朝禱会に出席出来なくなる。そこで祈っ

ていると、「二人の主人に仕えることはできない。…あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」(マタイ六章二四節)との聖言が与えられた。私は直にこの依頼を断った。そして、この朝禱会を続けたお蔭で、その後、どれだけ祝福を受けたか計り知れない。

パウロは「わたしたちは、生きるか死ねば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。」(ローマ一四章八節)と申している。アシラムに熱心に信仰生活されている方は既に体験されていると思うのですが、日常生活で起こってくる出来事を通して、また、病气や死に直面して、聖言を戴き、その聖言に任せ、従わせ戴くことは、信仰生活に於いて非常に大切である。日常生活のあらゆる出来事を通して、聖言を戴き、神から戴いた聖言であるから損得を無視して、聖言に聴き従う。後日、その聖言にして完全なる結果を見て、全身全霊をもって、神は生きておられると言わずにはおられないことを体験したことが何度もあった。私は祈り、祈って自分の利害、困難、憎悪の感情等から完全に開放され、心が打ち砕かれて、「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(マタイ二六章三九節)との聖言に聴き従う真のキリスト者でありますように祈り、願っている。

霊 想

ブドウ園のたごえ

マタイによる福音書

20章1〜16節



日本アングリカン・オプ・ゴッド教団

名古屋神召キリスト教会

牧師 内林 撒母耳^{サムエル}

この聖書の場所を読む時、その前後も読んでいきますと(19・1)にガリラヤを去り、ヨルダンの向こうにあるユダヤ地方に行かれ、エリコを出て(20・29)、エルサレムに行かれ(21・1)大勢の群衆がついてきて(19・2)、その中にパリサイ人(19・3)、弟子(19・10)、子どもたち(19・13)、金持ちの青年(19・22)が記されています。

ペテロの質問に対して(19・27)答えて(19・28、29)おられます。それに加えてたとえで語られたのがこの場所です。

ブドウ園は、天の御国です。主人は神様です。一日に六時、九時、十二時、三時、五時と市場にいる労働者を雇いに行きます。

五時までは、チャンスがあります。神の国に入り救われるのには、遅すぎることはないのです。今は恵の時です。救の日です。ハレルヤ、私にもこの恵が与えられていました。救の善と感謝に今満ちています。

本来このたとえは、弟子が、「私たちは何をいただけるでしょうか」との質問です。それに

答えています。

神の国につながることで、神の目的にかかわることは特権であつて自分で入手するものではないことを教えています。

一つは、今の地位、任務、機会に恵まれても、自分が偉くなったのではない。そう思つてはいけません。傲慢になつてはいけません。

アシュラムの指導者はどの方も謙虚な人ばかりです。スタンレー・ジョーンズ師の初期の頃は訪問伝道とアシュラムを日本に紹介されました。その時に若い私も参加していたのですが、聖公会の高瀬主教が、十字架の前でその弱さ、小ささをあらわし悔い改めて主に祈つておられました。その指導者の姿に感動しました。

二つめは、神の思いやりや豊かな恵みをだれとでも分かち合うことを忘れてはならない。独占することなく、愛、助け、慈しみ、あわれみを分かち合いましょ。

三つめは、ほかの人その霊的祝福をうらやまない、妬まないことです。神様の恵みと祝福は十分です。恵みを数えてみましょう。感謝と賛美がわいてきます。

神の国に入った人は、人との比較、信仰の長さ、奉仕の量を誇り、自分を位置づけしないで、むしろ神を中心に一致協力するのです。アシュラムで神に導かれ、従いましょ。

更にこのたとえを通してすばらしい恵と祝福をいただきましょ。

一、キリスト者は、すでに神の国の一員とされていきます。天国の領域に所属しています。永遠の命が与えられています。功績ではなく恵によつて与えられました。受け取るだけでした。

大きな恵でした。感謝でした。主を讚美し、崇めずにはいられません。どんなことをしても、どこに行つても、得られない最高のものを恵としていただきました。感謝です。ハレルヤです。

二、主に仕える喜びがあります。奉仕でできる喜びです。短くても感謝です。長く御奉仕が出来れば喜びが深く、豊かになります。主の大きな愛に触れ、その愛に應えて、神と人と教会に仕えていく時、心から主に仕えたという満足感と共に、更に仕えていきたいという気持ちになります。

三、こんな素晴らしい救を得、新しい再創造によつて新生をさせていただいたのは、誰かが伝えて下さったからです。自分で発見したのではなく、祈つて語ってくれたからです。

それを一人占めするのではなく、こんなす

ばらしい「グッドニュース」を家族に、隣人に、友人に、愛をこめて、ていねいに、相手にわかる言葉で伝え、一人でも多くの方々が、この恵みと祝福を共有していくことが求められているのではないのでしょうか。誰かがあなたの語りかけを待っているのです。

神の国の民とされたことを主に感謝し、賛美し、ほめたたえます。ハレルヤ。



アシラムの恵み

立証



日基 天門教会
牧師 貴村かたる

天の霊的な祝福に与るアシラムの交わりに感謝します。小さな群が、アシラムを通して出会い、つながり、支え合い、共に手と手を取り賛美と祈りを捧げる至福を味わうお恵みを分かち合いたいと思います。

二〇一九年二月十一日、第50回城北アシラムが池の上教会で持たれました。天門教会から四名で教会のニードを携え「神の国とその義と

を第一に求めなさい。そうすれば、すべてのものは与えられる。」の御言葉でアシラムに臨みました。教会のニードは車の必要性のためでした。現状で車を持つことは贅沢かと私は大変苦悩しておりましたが、ここ十数年の中野駅周辺や町内でのスピカー伝道、遠距離訪問等で車の必要を祈っていました。ある姉妹が、「神が必要とするなら物質も捧げます。」と、語られたことを思い出し、その姉妹にニードをお話しました。しばらくすると姉から「求めよ！さすれば与えられん、でしょ。」と、金一封が私の手に渡されました。車が与えられてから数か月が経ちました。ハンドルを握る度毎に、自家用車が与えられた幸せに嬉し涙がでて神に感謝を捧げています。

つい最近、「新宿区に自殺寸前の兄弟がいます、今すぐ行つていただけませんか」と、埼玉の方からの至急の依頼でした。住所をお聞きし、二十分後にはその方のお部屋に着き一命をとりとめました。交通機関を利用するならば、数時間がかかったことです。この時のスピーディな足もアシラムで出会ったバイク愛好家の兄弟より、牧会伝道のために頂いたバイクの功勞です。また、路傍伝道を手伝って下さる引退牧師との出会いも備えられました。

アシラムでの交わりの中で、池の上教会初

代牧師、山根可弐先生のお人柄をよくお聞きします。この日の城北アシラムは、栄えある日となりました。アシラム集会後、二冊の贈呈の御本を手にしました。一冊は、山根可弐先生の自叙伝「キリストの形なるまで」。もう一冊は、ジュリアン・N・飯島兄の「山上の垂訓に隠された生命の道」の御本です。いただいた御本を、興奮して読ませていただきました。

私は心の中で、信徒さんたちに深く慕われ、愛される山根可弐先生に敬意を感じておりましたので、先生のお人柄に親しみつつ、楽しく読ませていただきました。もう一冊のジュリアン・N・飯島兄の御本は御言葉の靈力に満たされていて、神が与えてくださる聖靈に満たされていて、主イエスの御言葉である真理に満たされた実践的解き明かしと、兄の勤勉さに目が覚めさせられました。教会再建の霊的な道の案内図があつて、実践的バイブルスタデイの御言葉に還るその道を行けば、教会が安全に生きる事ができるということを教えてくれました。私は悔い改めて「バイブルスタデイ」を開校し、週2回、五か月休みなく続けております。聖書の使命に燃え立たせた導きに感謝します。これからもアシラムのお交わり宜しくお願い申し上げます。 シャローム。

故小島十二師を偲ぶ

関西アシュラム書記

牧師 脇田眞一

小島十二先生は日本アシュラム連盟の理事であり、関西支部の支部長でありました。二〇一八年秋の関西アシュラムの第一日目の九月二三日午前一時四十分先生は天に召されました。関西アシュラムの中心の柱として長年にわたり働いて下さっていた人を失い、私達は非常に悲しみました。委員の方々は小島先生の亡くなった穴を埋めるべく、急ぎよ相談してその役を何とか果たすことが出来ました。告別式はこのアシュラム研修会の助言者として招いていた工藤弘雄師（元関西聖書神学校校長）がして下さいることになりました。すべて神様のなさる深い御心を私達は感謝致しました。

関西支部の研修会において、先生が先導して「イエスは主である」と三度唱和し、また「イエスは蘇られた。イエスは実に蘇られた」と皆で大声で唱和する姿が目につかびます。

先生は祈りの人であり、聖霊ということを非常に大切にされました。委員会において先生が祈られる時、その祈りは深く私達の霊性を清め、高めて下さいました。毎年秋の関西アシュラム研修会の前に、先生はその研修会のためにご自宅に委員を招いて祈り会を開いて下さり、また、研修会に参加するまでに、毎日、読んで置くべき、聖書の箇所を記した書面を

参加者に配布して、研修会に参加する準備をして下さいました。小島先生は関西支部長としてアシュラムの働きに本当に命がけでご奉仕して下さいました。先生には重い血液系の癌の病があるのに、病等全くないかのような様子で祈り会やその他の働きを導いて戴きました。先生のご生涯はまず、神様を第一にされ、そして他の人が恵みの証をされた後には、先生は「ご聖霊様が喜んで下さっています」とよく言われました。アシュラム委員会の後で、私が自分の癌の摘出手術の証をした際、「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うるたえてはならない。おのいてはならない。あなたがどこに行つてもあなたの神、主は共にいる。」（ヨシユア記一章九節）、このみ言葉が与えられ、喜びと平安に包まれ、そして、この平安は翌日の手術の時までずっと続いていたとの証をした時に、小島先生は「大変有難いめぐみを戴かれましたね。御聖霊が喜んでおられます」と言われました。

先生は徹底して神の言葉だけを語られ、人間に気に入られるようなことは一切話されませんでした。先生と話しているときは、いつも緊張感を感じるような気がしました。それは次の聖言にあるようにありました。「イエスは振り向いてペトロに言われた。『サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。』（マタイ一六章二三節）。このようにいうと、非常に堅苦しい人のように、聞こえますが、決してそうではなく、その言動が信仰に徹しておられたのです。このような先生に親しく

接し得たことは私の信仰にとって非常に重要で、有益でありました。そのことは関西アシュラムに取っても有益でありました。

先生のご生涯を通して主の僕として証言し、また歩まれことを思い、私達はこの主の僕の歩みを大切に深く思いながら、私達もまた、主の僕としてしっかりと歩ませて戴き、神様に感謝すると共に、先生に心から謝申し上げます。



アシュラム予告

- 第57回関東アシュラム
とき 9月9日～11日
会場 山崎製パン箱根山荘
助言者 榎本恵師
- 第54回九州アシュラム
とき 9月15日～16日
会場 福岡黙想の家
助言者 榎本恵師
- 第53回関西アシュラム
とき 9月22日～23日
会場 新宿西教会
助言の時 深谷春男師
- 函館ミニアシュラム
とき 10月14日
会場 函館栄光教会
助言者 脇田眞一師
- 第51回城北アシュラム
とき 20年2月11日
会場 新宿西教会
助言の時 深谷春男師

編集後記

アシュラム誌を長い期間編集発行された横山理事長から受け継いで、紙面を昨年からカラー化し、アシュラム運動の継承をしてきました。このたび、20年ぶりにインド・サトタルへの旅をしかも近江アシュラムセンターと共同で企画しました。四年前から始まったアシュラムセンター、とりわけ榎本恵先生との交わりによって、スタンレー博士を根元とすれば、いくつもの枝が育ち、今、花が咲こうとしています。